

ヒアリってどんなアリ? —正しく恐れよう外来アリたち—

かるべ はるき
苅部 治紀(学芸員)

今年の初夏から、マスコミを賑わわせた「ヒアリ」ですが、多くの方はこれまでその名前を聞いたこともなかったと思います。ここでは、ヒアリについての基礎知識と、その他の外来アリ問題について紹介します。

ヒアリとは?

ヒアリは、英名のFire Antの直訳で、刺された時のやけどのような痛みからの命名です。働きアリの体長が2~6mmほどの比較的小型のアリです。体は赤茶色で腹部は黒みがかかります。南米中部原産で、最初に侵入した北米南部を皮切りに環太平洋地域に広く定着しています。アリ類は小型のため、物資に紛れて容易に移動していきます。

ヒアリの怖さ

多くの外来アリの中でも、とくにヒアリが恐れられているのは、その毒性の強さからです。ヒアリの毒針に刺されるとスレプトシンというアルカロイド毒と微量のたんぱく毒が注入され、これらが激しい痛みや命にかかわる劇症アレルギー(アナフィラキシーショック:蕁麻疹、激しい動悸やめまいなどの症状を示し、最悪の場合死に至る)の原因になります。筆者の知人も、台湾でヒアリに刺されて劇症アレルギーを発症し、病院で手当てを受けました。スズメバチなどによる被害はよく知られていますが、より身近なアリで強毒性の種が定着すると危険は格段に高くなります。

なお、ヒアリは家畜や農作物にも被害を与え、侵入先の国や地域に多額の経済被害をもたらします。これらのことから環境省による「特定外来生物」に指定されています。

日本での確認

日本国内への侵入が警戒されていたヒアリは、2017年6月、兵庫県尼崎市のコンテナで初確認されました。その後の緊急調査により、8月30日現在で11都府県から確認されています。今年一気に日本各地に侵入したのではなく、これまで徐々に侵入していたものが、調査によって発見されたと考えるのが自然でしょう。今のところ確認地点は港湾中心ですが、内陸部での確認例もあり、コンテナに乗って今も各地に運ばれている可能性があります。

ヒアリへの対応は?

恐ろしい被害をもたらすヒアリですが、その対応はどうすれば良いのでしょうか? まずは、敵のことをしっかり知らないといけません。筆者も実際にヒアリの標本を見ましたが、ぱっと見には「普通の赤っぽいアリ」にしか見えません。区別点とされる、「触角は10節」などの特徴は顕微鏡がないと見えなそうです。赤っぽい体色、素早く動くこと、塚状の巣を作ることは在来種にはほとんど見られない特徴なので、これらの組み合わせで「怪しいやつ」を抽出し、慎重に殺虫し、サンプル(写真も可)を専門機関などに送付して確認してもらうのが現実的でしょう。現在市民からの問い合わせでは、アリではない「アリグモ」の比率がかなり高いとのことで、種の判定の難しさを感じます。

万一刺された時には一刻も早く病院に行き、「アリに刺された」「劇症アレルギーかもしれない」ことを医師に伝えましょう。

その他の外来アリ

今回のヒアリ騒動の陰に隠れています。他にも問題の大きい外来アリがあります。中国地方などで猛威をふるうアルゼンチンアリや、今年本州(静岡県、岐阜県)で初めて確認されたアカカミアリなどがその代表です。アルゼンチンアリは、刺すことはありませんが、攻撃的でよく噛みつき、大量のアリが人家に侵入すれば、日常生活に支障をきたします。このアルゼンチンアリは、東京港や横浜港ですでに定着が確認されており、いずれも確認初期からの駆除によって地域根絶やそれに近い状態までコントロールされていますが、今後も警戒を続けなくてはなりません。アカカミアリは、ヒアリと同じ属に分類されるごく近縁なアリです。ヒアリとよく似た毒を持ち、劇症アレルギー事例も報告されている危険なアリです。国内では小笠原諸島の硫黄島のみで定着していますが、他にも沖縄島や伊江島(琉球列島)の米軍基地周辺で記録があり、軍関係の物流による侵入と考えられています。なお、今年の確認例の原因としては、他の定着地からの物流に伴う侵入が疑われています。

ヒアリを含めたこれらの侵略的外来種として扱われるアリは、侵入地域で在来



図1. ヒアリ. 岸本年郎氏撮影.

のアリを駆逐し、在来生態系を根底から破壊してしまうという大きな生態系リスクを持っています。

在来種にも「刺すアリ」はいる

多くの方は、アリは噛むものだと思っているようですが、実は割と身近なところにも「刺す在来アリ」がいます。オオハリアリなどのハリアリ類が代表で、人家の庭などにも生息し、朽木に好んで巣を作り、巣を刺激すると刺される可能性があります。たとえアリに刺されたとしても「ヒアリに刺された!」とパニックにならず、落ち着いて種類の確認と症状の経過を観察していただきたいと思います。「何に刺されたか」はその後の治療でも非常に重要な情報になります。ハリアリ類も刺されると痛い、人によっては腫れますが、劇症アレルギーの事例はないようです。

アリ恐怖症・アリ過敏症にならないで!

ちょっと気になる動きがあります。近所のドラッグストアなどで「ヒアリにも効く!」という宣伝文句でアリ駆除剤が大量に販売されていました。在来アリは、生態系の中でも重要な役割を持っているグループです。ごく一部の危険なアリの存在から、アリ憎し! になって、駆逐してしまうことは、アリの空白域を作り、ヒアリなどの外来アリが侵入しやすい環境を作ってしまうという指摘もあります。グローバル化が進行し、世界各地からおびただしい物資が休むことなく流通する現代に生きる我々は、海外からの侵入生物とは無縁ではられません。今回のヒアリの例や最近のデング熱の事例からも、正確な知識を身につけ、冷静な対応をとる態度がますます重要になってきています。